

## 出水の小川

京都御所の建物と塀を取り巻くように流れる水路は、御溝水として知られています。この流れの美観と音は洗練された雰囲気醸し出し、公園に安らぎの雰囲気を演出する役割を果たしています。

出水の小川は御溝水から水を引いた小さなせせらぎです。長さは 110m ほど、深さは 5cm ほどで、川床には、御苑の苑内の玉砂利と同じ小石が敷き詰められています。井戸水をろ過して再利用することにより、流れが保たれています。

『古今和歌集』は日本の文学史上最も有名で、かつ重要な詞華集の一つですが、その中の一首で菅野高世は、桜の花びらが御溝水に浮かんで皇太子の御所を流れてゆく魅力的な光景を描いています（古今和歌集 81 番）。この歌によって、わたしたちは当時の人がどれほどこの御溝水を愛していたかを理解することができます。

枝よりもあだに散りにし花なれば落ちてても水の泡とこそなれ